

永井隆からのメッセージ

近く世に出すはずの二冊の本の原稿も出来上がっていますので、もうこれで鉛筆を箱に納め、あとはひたすら祈りの生活に入ろうと考えておりました。けれども、それはできません。今年になると原子爆弾問題が極めてさし迫った形で人類の前に立ちふさがりました。

平和を保つために、戦争を永久に起こさぬために叫び、かつ書くことが、いよいよ必要な時勢となっております。私は筆を納める決心をひるがえします。

いつまで続くかわかりませんが、生ける限りは書き続けます。

平和を！ 平和を！ 平和を！……と。

未発表稿「輝く港」より

私達 日本国民は、憲法において戦争をしない事を決めた。(中略)
これこそ、戦争の惨禍に目覚めた本場の日本人の声なのだ。しかし理屈はなんとでもつき、世論はどちらへでもなびくものである。日本をめぐる国際情勢次第では、日本人の中から、憲法を改めて戦争放棄の条項を削れ、と叫ぶ者が出ないともかぎらない。そしてその叫びが、いかにももつともらしい理屈をつけて、世論を日本再武装に引き付けるかもしれない。(中略)
敵が攻め寄せた時、武器がなかったら、みすみす皆殺しにされてしま
うではないか？・・・という人が多いだろう。しかし、武器を持っ
ている方が果たして生き残るであろうか？
「鳩と狼(いととこ)」

平和を守るために現代人はまず自分の意志の自由を取り返さねばならぬ。
「平和塔 平和塔」

およしなさい、やめなさい、

戦争だけはやめてください。
原子爆弾のすごさを知らないから、宣伝が半分
はあろうなどとなめてかかって危ない火遊びを
するのだ。

平和を保つためには、ぜひ現代の世界の人々
に掛け値なしの真相を知らせる必要がある。

「原子野に伏して」(平和塔)

いくつかの本を書きましたが、つまるところ私
の書いたことは、「平和を」の願いであります。

人はだれもみな平和を願っております。相手を
憎む心が起こったら、もう自分も平和を願う権利を
失ったものとなります。

相手を愛し相手の改心のために、犠牲をささげ
て祈りましょう。それが平和を保つ、いちばんの手
堅い方法と思います。

「平和を」(原子野録音)

～ 永井博士は、今こんな世界を願っていることでしょう ～

- 1、生命の尊厳 全ての生命を尊重し、愛と調和を基調とした世界。
- 2、すべての違いの尊重

異なった人種、民族、宗教、文化、伝統、習慣を認め合い、重し合い、その多様性を
たたえ合い、喜び合える世界。差別や対立のない世界。

- 3、大自然への感謝と共生

人類は大自然の恩恵により生かされていることを認識し、すべての生きとしいける
ものに感謝の心を持って接し、大自然と調和、共生していく世界。

- 4、精神と物質の調和 物質偏重主義から脱却し、物質の豊かさだけでなく、心の豊かさ
が価値を持つ世界。

生命憲章(抜粋)

王不金

一
あ
と

候

Paul

永桂
陸

金



3月公演時の渡辺さん(左)と中山さん(プレイエル提供)

永井隆博士辞世の句に山田耕柞が曲

平和願う「白薔薇の歌」

20日波田 歌手の渡辺しおりさんが披露

長崎で被爆し、原爆症研究と長崎復興に尽力した永井隆博士の辞世の句に山田耕柞が曲を付けた「白薔薇(バラ)の歌」。楽譜が出版されておらず、ほとんど知られていないこの歌を、岡谷市のソプラノ歌手渡辺しおりさんが20日、松本市波田の「カフェプレイエル&ギラリヤましろ」の第49回定例コンサートで披露する。平和を願う先人の思いを、戦後70年の節目にあためて伝える。

(松尾尚久)

「白薔薇」は、永を付け、永井博士の葬では「と渡辺さんは言

う。

井博士の辞世「白薔薇 儀で純心女子学園聖歌の花より香いたつと」隊によって歌われた合 昨年、インターネッ

くこの身を離れ昇り 唱歌。「葬儀後、ほと ト上で曲の存在を知っ

ゆくらむ」に耕柞が曲 んど歌われていないの た渡辺さんは、耕柞の

自筆譜を所蔵する「明治学院大図書館付属日本近代音楽館」から楽譜の複写を取り寄せ、ピアノリストの中山博之さんに編曲を依頼。今年3月にプレイエルで開いた「山田耕柞没後50年記念コンサート」で初披露したところ、チケットは完売し、追加公演となった。

永井隆(1908〜51年) 放射線専門医。長崎医科大学勤務中に被爆し、自分の体で原爆症を研究。闘病中、「長崎の鐘」(49年)、「この子を残して」(48年)など多くの著作を残した。地元の学校に桜の苗を寄贈、子のために図書館を作るなど復興へも尽力。

山田耕柞(1886〜1965年) 作曲家。「長崎の鐘」の歌劇化を試みたが、一音符も書けない日々。それでも闘病中の永井博士を励ましたいと作曲して贈ったのが「南天の花」(50年)だった。

永井博士と耕柞には「南天の花」というも一つの共作がある。長崎を代表する平和の歌だが楽譜は廃版。渡辺さんは長崎の「永井隆記念館」から楽譜を取り寄せ、13年にプレイエルで歌った。コンサートではこの曲も演目に入れる。

「2つの歌を通して、平和を願う永井博士の思いを感じてもらえた」と渡辺さん。

戦後70年の節目 心に届く大切さ

プレイエルは永井博士と松本市安曇出身の

版画家加藤大道の共作 版画を常設展示。永井博士の遺族とも交流し、松本から永井博士の思いと平和の大切さを伝えている。

経営者の古畑博子さん(波田)は「再び歌に命が吹き込まれ、多くの人の心に届くことがうれしいし、大切なことだと感じる。戦後70年の節目に、もう一度平和について考えるきっかけにしてみたい」と話す。

午後2時開演。ピアノ伴奏は中山さん。3500円(茶、菓子付き)。定員40人。同店 ☎92・8158

「長崎の鐘」音詩に

18、19日

波田「やましる」で初演コンサート

原爆投下から8月で70年。8月9日の長崎原爆忌を前に、松本市波田の「カフェプレイエル&ギャラリーやましる」で18、19日、原爆症研究と長崎復興に尽力した医学博士永井隆の長詩「長崎の鐘」を音詩化した、世界初演のコンサートが開かれる。（松尾尚久）

「長崎の鐘」は150行からなる叙事詩。永井の短歌集「新しき朝」（聖母文庫）に収録されている。戦後、作曲家山田耕作が歌劇か交響詩にしようと試みたが果たせず、以降だれも曲

長詩「長崎の鐘」 「長崎は久遠の港」で始まる未完の叙事詩。原爆投下の嘆きや怒り、平和を願う永井隆の思いが、美しい日本語でつづられる。

永井には同名の随筆があり、随筆をモチーフにサトウハチローが作詞、古関裕而が作曲した歌謡曲「長崎の鐘」がある。また、随筆は映画にもなった。

界的に活躍。古畑さん 知り、作曲を決意。今年と親交があり、プレイエルでこれまで5回演奏会を開いている。

また古畑さんは、長崎の「永井隆記念館」や永井の遺族とも長年交流し、松本から永井隆の思いと平和の大切さを伝えている。

昨年9月、辻さんが同店を訪れた際、話題はいつしか「長崎の鐘」に。辻さんは

「長崎の鐘」に。辻さんはチェルノブイリ原発事故後に東欧で鎮魂コンサートツアを行つた

など、音楽を通じて平和活動をする音楽家。「長崎の鐘」の存在を

永井と加藤の共作版画が飾られるギャラリーで朗読を練習する古畑さん



同日 928158